

社会福祉法人尾道さつき会 尾道福祉専門学校  
令和6年度 第2回教育課程編成委員会議事録

1. 日時 令和7年2月21日(金) 13:30~14:30

2. 場所 尾道福祉専門学校 オンライン会議

3. 出席者

社会福祉法人泰清会 サンライズマリン瀬戸 施設長 久保田あけみ氏

株式会社ゆず 代表取締役 川原奨二氏

広島国際大学 健康科学部 客員教授 久保田トミ子氏

尾道福祉専門学校 校長 邑岡志保

尾道福祉専門学校 教務主任 重岡秀和

4. 報告事項

(1) 学生動向について(邑岡)

- ・新年度新卒18名(入試は、残り2回ある)昨年この時点で13名のため、増加している。
- ・尾道エリアにおいて入学生が減っている。
- ・昨年に比べて、現高校生の方がガイダンス出席率が高い。
- ・委託訓練生説明会9名参加
- ・来年度は、高校から、福祉の授業の依頼があり。
- ・今年度卒業生の就職状況について説明。

(2) 前期授業実施経過について(重岡)

- ・後期授業の残りとしては、生活快支援論において、地域の祭りに参加する日程がある。
- ・授業自体はすべて実施しているが、実技試験の合格に向けて、1・2年生が努力している。

(3) 行事、カリキュラムについて(重岡)

- ・昨年度と同様に、学生が主体的に学べる行事を計画している。例年通り、試験や実習等についても同様の日程で行っていく。
- ・カリキュラムについては、総合介護福祉論において、ICT・介護ロボットが、体験的に学べるように、福祉用具についての有識者を外部講師にお招きし授業を行っていただく。
- ・その他カリキュラムにおいては、大きな変更はなし。

(4) 介護実習支援システム

- ・来年度(新1年生)より、介護実習記録・実習日誌のICT化に向けてシステムを導入予定。このシステムを利用することで、記録や概況表などの紙媒体での記入がなくなることから、リアルタイムに指導につながり、紛失も未然に防ぐことが出来る。また、実習指導者との連絡もスムーズになり、評価表等の書類の提出もオンライン上で可能となる為、郵送費用がかからない。現在検討中で、正式に導入が決定すると、実習施設向けの説明会を行う。

今まで、この教育課程編成委員会でも話題として取り上げていただいたが、個人のペースに合わせた学習のしくみについて、今年度から、学生個人の力量に合わせ2年過程のところを3.4年の期間で科目の履修がしやすいように、3年目以降にかかる学費等の負担を減らし、例年なら退学していたかもしれない学生の履修環境・カリキュラムを調整した。最高12科目再履修が必要な学生も慣れたクラスメイトと一緒に2年に上がりながら、1年の科目の履修ができる方法を選択して在籍している。このような学生3名が2年生に在籍しながら、1年次の介護実習や科目の履修をしている。介護福祉士になりたいという初心の継続の支援の1つの整備となっているかと思う。

## 5. 意見交換

(久保田と)

- ・介護実習支援システムは、小さいころからタブレットやパソコンで育ってきた世代や、外国人に対しても、いいシステムだと思う。

(川原)

- ・外国人材については、登録研修機関を通さないといけないが、国によって支援が違う（現地日本語学校での教育によってレベルが異なる）。独自のアプリを活用した教育もある。

(久保田あ)

- ・仕事中は日本語を話してもらうなど、外国人材が日本語になれるための工夫をしている。  
N3を取得しないと、技能実習生の枠が増えない。受入れ当初と比べると、日本語能力の低下が気になる。

(重岡)

- ・今年度、不認定の単位を残したまま2年生にあがり、2年次に1年生科目を優先して受講、3年目に2年生科目の取得を行い卒業する学生がいる。本人のペースで学びを深めて卒業できた。

(川原)

- ・自分のペースで学べることはいいことだと思う。1年次もう一度することによる退学を防ぐことができる。

校長) まとめとして貴重なご意見を今後生かしていく。